

# フェロウ向け LMPでファミリーや 地域を豊かにする情報！



[発行日]2025年1月

## 第11回目を迎えて、LMPはファミリーを豊かにするイベントに！

LMPの話題をすると、「東京のイベントだから」「うちのファミリーにはユース世代がないから」ということばがよく聞こえてきます。今やオンラインでも観覧できるので、距離関係なく、また私達の活動は多世代の活動だという原点に戻って、うまくLMPを活用して、メンバーの多言語を育てるだけでなく、地域が豊かに、ファミリーにメンバーが増えた例をいくつかご紹介します。

### 一般の参加者が19名！そのうち18名がヒッポ会員からの紹介で予選に参加！

LMPは、まだまだ一般には知られていないプレゼンテーション大会です。ですが第11回目を迎え、文科省の後援をいただきたくまでに成長しました。一般参加者の応募も各フェロウの皆さんが地域の大学や街貼りポスターをしていただいていると思いますが、一般参加者の19名のうち、18名が会員からの紹介です。(あと一人もおそらく会員からの紹介だと思いますが、まだわかっていません)第10回は一般からの参加者がほとんどなかったのですが、第11回はフェロウの皆さんが本当にあちこちでお知らせ頂き、19人ものご縁のある方が、一般応募された結果となりました。

また、日本に来ているインジャパン生にとっても、日本語が成長する場として活用されるのが周知されるようになってきました。今回、新しい動きがありました。インジャパン生は春組と夏組があり、春組は4月に来て、12月には帰国するので、LMPは参加できないものと考えられていましたが、春組の留学生でも、本選に行けたら、また日本に来れる機会になるから、ぜひLMP予選に応募したい！と第11回目のLMP予選では春組タイの留学生がたくさん参加してくれました。

また、第10回目で太湖の卒業生が2名参加。第11回目では、太湖1名と台湾の学校から1名の参加。いずれも、太湖でお世話になっているダイアナ先生の紹介で参加してくれています。このように今までお世話になって交流している団体から、LMPも参加してくれることが増えていきますので、地域で繋がりのある団体や人がいらしたら、LMPをきっかけにヒッポを紹介することが出来たらいいですね。ファミリーでの準備を通して、仲良くなり、ヒッポの良さが伝わる良い機会になると思います。

今までのチラシを配って、講演会や体験会、ワークショップに来ていただいて新しい仲間が増えるのとは、違った切り口になりますが、ユース世代や、留学生たちに、ことばが育ち、人と交流するヒッポの環境の良さを体感しながら、伝える術として活用していただけたらと思います。

また、海外の方が参加することで、年々LMPプレゼンテーションのレベルが底上げされてきているようです。毎年のように観覧している人がそのように口々に感想を話されていました。

### プレゼンターがヒッポメンバーになってくれた嬉しい報告♪

#### LMP予選を一般の方に伝えて

・フェロウの自分にとって、ハードルの高いLMPでしたが、LMP相談カフェに参加し、皆さんの話を聞いていると、「自分も若者の話を聞きたい！」と心から思い、どこかにポスター掲示のお願いに行ってみたいと思い、つながりのある大学などにご案内していたところ、日本語ボランティアで知り合ったずすが出場を決めてくれました。ファミリー、地域、日本語教室の生徒さん、家族と一緒に準備し、やり切りましたが、残念ながら本選にはいけなかったけど、ずすが「またチャレンジしたい。ヒッポの仲間と知り合えてよかった」と、ヒッポに入会し一緒に活動することになりました。これから、ますます楽しみです。(ゆず岩手)

#### 留学生がLMP出場し、 入会1年経ってのファミリーの変化

山形県在住の私にとってLMPは遠いなあという感じだったけど、ヒッポの仲間の勧めで息子とホームステイ受け入れたマレーシア出身留学生アミラの2人が出場することに。そしてLMPをファミリーや全国のたくさんの仲間と創ったことで、「この繋がりをなくしたくない！」とアミラが入会することになりました。アミラは、この1年間学業も忙しい中、ファミリーはもちろん、地域の青少年合宿や、東北ワークショップにホームステイしながら参加。そして、そのホストファミリーを引き受けてくれたメンバーがフェロウ宣言！するなど、アミラとの出会いは私達にとっても豊かな環境になっているのを実感しています。(しゃん山形)

---

## 大分県APU大学でヒッポのサークルを始めたい想いから

ヒッポ育ちの子ども達が、多く通うAPU大学（立命館アジア太平洋大学）。今現在もヒッポメンバーが通っています。そこでサークルとしてヒッポを始めたいという想いから、LMPを活用した例をご紹介します。

経緯としてはまず、APUでヒッポを始めようと思っていたのがきっかけでした。でも単にサークルを作るだけじゃ難しいと言われてしまい、何か実績を残す必要があったので、ヒッポではない生徒と一緒にLMPに出よう！ということになりました。インスタグラムや知人に沢山声をかけて人を集めました！結局APU大学からは、7人予選に出場しました。たっくんとちーちゃんという日本人ヒッポメンバーの先輩は、個人的に出場をエントリーしてくれてましたので、私から誘って出場してくれることになった人は3人でした。なので、私含めて、4人です！（ひかちゃん湘南メンバー）

---

## 地域とのつながりとして

東京都大田区教育委員会を通して、区内全校の校長先生宛に「先生方へのLMPご招待メール」を配信してくださることになりました。

思い返せば、過去のクレームがきっかけで行政との関係は持てないままになっていたことへの打開策として、10年ほど前から年に一度活動報告に行くようになり、7年前から区議の松原さんの助言もいただきながら、大田区と大田区教育委員会の講演をいただいていた講座を開催できるようになった経緯があります。

そして今回のLMP地元開催！文部科学省の後援も取れている！ということで、これは地元の先生方にぜひ聴きにきていただきたい！とアプローチしてみることに。まずは毎回LMPにご来賓として来てくださる区議の松原秀典さんにご挨拶に伺い、今年も招待させていただきたいことと、今回は学校の先生方も招待したいことを伝えたところ、教育委員会指導企画担当木下課長を紹介してくださいました。

ナッツ&まみで木下課長含め3名の方に改めてヒッポとLMPの説明と、ナッツ宅ホームステイ中のインターン生のAkaちゃんが出場することや、多言語プレゼンテーションする若者たちは、このスピーチを通して様々なことを見つけていくことをお伝えし、前回LMPのダイジェスト動画3分もお見せすることができて、私たちが先生方をご招待したい理由を、感じていただけたと思います。

さらに、ナッツが現在小学校のPTA会長なので、横浜の中学校開催トークセッションに登壇した時の感想として、とにかく子どもたちは失敗することや間違うことが怖いと感じていることや、世界を見て多言語に触れることで、そういった閉塞感が打開されると感じると話してくれたり、Akaちゃんの背景、お母さんがアラビア人、お父さんがイラン人、イスラム教の教えの下、アメリカに移住してそこで育ってきたという特殊な環境の中で、自分を確立していく強さなどについても話してくれました。ナッツが今感じているリアリティのある話を、みなさん聞いて聞いてくださいました。

木下さんは事前にホームページも見てくださったそうで、赤ちゃんの方法でことばを身につけるというのは面白いですね！と興味を持ってくださり、間違いを恐れず、全体から分かり、人と向き合いながら話せるようになるスタンスは、英語教育でも同じですよと。最後には、ぜひこれから、また別の場面でも何かできれば。ぜひお力を貸してくださいと。大田区はOGC（おおたグローバルコミュニケーション）という教育に力を入れているということもあるので、本当に何かやっていけるかもと感じました。この先も折に触れお話する機会を作りつつ、ヒッポの動きを大きくしていけるような気がします。（清水まみ東急）

## 地域の祝賀会や小学校でLMPを話題に

秋に地元の産業まつりで久しぶりに再会した埼玉県議さんから誘われて、勲章の祝賀会に、同じく埼玉西のユーリーと誘われるまま出席してきました。300人以上集まる、きっと色んな人に会えるんだろう…ざっくりしたイメージでいざ会場に入ると近隣の市長さんたちがごっそり、高校の校長先生や医師会会長さん、幼稚園の理事長さんたち、銀行の支店長たちや議員さんたちがずらり…金屏風の盛大なお式でした。ユーリーと2人、場違い間を感じ、後ずさりする気持ちを奮い立たせて、「今日ここでしか会えない人いるよね」と席次表を見ながら、次はこの人、次はあそこのテーブル…と名刺とLMPの招待状、急遽作った地元の子たちが出たLMPの様子ちらし、ゆーりーはヒッポの体験が乗ったハガキ大名刺を携えて果敢にヒッポの話をしてきました！中でも嬉しかったのが大野埼玉県知事に息子たちが埼玉県の奨学金制度を使わせてもらい、奨学金をもらってイヤロンに行けたお礼を伝えられたことでした。この奨学金制度は大野知事が作られた制度で知事自身お子さんも留学経験があり、大変喜ばれ、話も盛り上がり！（これはもしや2時間かかる埼玉から、東京都大田区のLMP会場にリアルで参加してくれちゃうか？）とわくわくしましたが、先約ありで叶わず…でしたが、なんと「大田区に友だちがいるから」と紹介してくれることになりました。大野知事の大田区議を紹介してくれ（携帯番号でした!(^^)!)今その方とやりとりして、大田区フェローの、りーと一緒にどうしたら一般の方の参加を増やすことができるか相談させてください～とやりとり中です。

嬉しかったのは県議の祝賀会で県議さんにいろんな国のことばで「おめでとう！！」を浴びせたら、ほーんとに笑顔になって周りの人たちも、みんな笑顔になって、ヒッポで育ててもらった多言語はスキルとか、優劣をつけちゃう多言語じゃなくて、こうやってみんなが思わず笑っちゃうそんな多言語をみんなに育ててもらったんだなあ！！改めてありがたいなあ！と実感しました。

つい先日は、国際理解授業の打合せで小学校の理科室にて、4年生の担任の先生と話し、先生が実は大学生のときにドイツ語を知らないまま、ただ家に来たドイツの子に会いたくて、半年ドイツに飛び込んだときにドイツって本当にいろんな言葉がきこえてきて聞いているだけで楽しいですね〜と先生が頬を赤らめた瞬間「そういえば・・・今度12月15日にプレゼン大会がありまして、いろんなことば、楽しめますよ」ユーリーが口火を切ってくれ、「5分いいですか？」とその場で昨年度出場の柵山マール@埼玉西のプレゼンyoutubeと一緒に観ました。先生方がたのしい〜とワクワクマックスで、隣に座っていたドイツに行っていない先生が「私、ALTの先生にオラ！って行ってみたい・・・」と言いました〜びっくり！LMPオンライン予選のお知らせチラシを持っていなかったの（ダサイ）メールで先生にお送りします！と約束し、帰宅後「画面の向こうから、応援してください」とLMPのオンライン予選のyoutubeアドレスをメールしました！

なんだか流れに任せて動いていたけど、今回は文科省の後援もいただけてるし、塩対応の行政には（ほれほれほれ〜）って印籠のように見せられるし(笑)、国際理解授業がなかなかできてない学校とか、ふだんお世話になっているメンバーの学校の校長先生なんかにもLMPのお知らせしながら楽しくヒッポの話ができるのもたのしいな〜と。

3月20日直前だと、いろいろ予定が入っちゃうし、動くなら今なのか〜と焦って、先日はモナミ、まきちゃんと川越市教委に行って教育委員会のみなさんにLMPのお知らせを回覧してもらおうお願いしつつ年明けのご挨拶に教育長のアポもとってみました！LMPに出場して今ママになっているメンバーたちと教育長に会いに行って招待状を渡したいなあ。川越からLMP会場までは2時間かかっちゃうんだけどね(T\_T)

でも去年、山形からシャンも校長先生と参加していてすごかったよなあ！と行くいかないだけでなくLMPをきっかけに、いろいろ楽しい事していきたいな〜オンライン予選ならもっと活用すれば楽しく外部の方と共有できそうだし〜になにかできないかな〜

LMPサポートミーティングで話したら、シェアしてね〜とのことでしたので長くなりましたがそんな感じで動き始めました〜ちゃおちゃお（さゆちー埼玉西）

## 第11回目を迎えるLMP本選は、文科省と国際交流協会の後援をいただいています！ ぜひ活用下さい！

文部科学省



文部科学省

国際交流基金



JAPAN FOUNDATION  
国際交流基金

全国フェロウメーリスにて、「全国フェロウ交流：6006」をご覧ください。招待チラシや、ちらしテンプレートを活用する際の注意事項など、詳細があります。

## 編集後記〜埼玉県がたくさんLMP出場者を輩出している背景を知る〜

LMPサポートフェロウとして関わるようになって3年目になります。毎年、進化をしてくている様子を目の当たりにして、LMPはあるものではなく、皆で作上げるものなのだとわかるようになりました。そして、イベントだと思っていたのが、LMPこそ、ファミリー作り、地域作りだと感じています。

LMPプレゼンターを呼んじゃおう企画で、プレゼンターを呼びたいフェロウを応募したら、埼玉県でなんと20名近いフェロウが応募し、これは全国見ても、一番応募が多いのです。その謎が「フェロウによるLMP相談カフェ」の中で明らかになります。特に埼玉西地域ではLMP出場者が18名もあり、ユースたちのつながりが、網目のような関係性の中で、LMPはユース世代が「この子はまだLMPを観覧に行くところから始めた方がいいかも」とか「YL行ってないけど、声をかけてみよう」など、先輩プレゼンターが次のプレゼンターになる子をフェロウと一緒に考えているそうです。埼玉のフェロウ自身が、LMPの関心が高く、だからこそプレゼンターも多く輩出しているのかなと思いました。イヤロン行ったら、いつの間にかフェードアウトしてしまう世代ですが、交流やイヤロンに送り出すように、ユース世代が育つ場としてLMPに出たらいいよと声をかけてくれているのだなと思いました。（りー東急）

